

## ファン心理の構造 —— 思春期・青年期の発達課題との関連から ——

川 上 桜 子

### 序 論

#### はじめに

ファンとは、「スポーツや芸能での熱狂的な愛好者ファナティック (fanatic) の短縮語」(清水、1997)と定義されている。このような現象の示す心理、つまりファン心理とは、多くの人たちに存在し、共有される心理であると考ええる。しかし、ファン心理とは、そのような日常的な心理である一方で、病理と表裏一体ともいえるような側面も存在すると考える。たとえば、ファン対象の自殺によって起こるファンの後追い自殺という現象は、文部科学省(2004)の調べによって、そのような現象が話題になった年度の公立小中高生の自殺者が、他の年度と比較して増加していることが示されていることから、特に若年代に見られるものであると考えられている。このように、ファン心理とは日常的に共有される心理である一方で、病理との関連も予測させる心理であるとみなすこともできる。このような多義的な意味を持つ心理であるファン心理とは、どのような心理であるのかについて、すでに人々に共有されている部分も含めて、実証的に明らかにすることが出来ればと考えたことが、本研究の出発点になっている。

#### ファンの定義

本研究では、これまでなされてきた定義と本研究における目的との関連をふまえ、ファンを「日常では出会わないある特定の人物(グループ、チームを含む)に対して好意を持っている自称“ファン”である人」と定義する。つまりファンを、①対象は人物に限ること、②対象は日常で出会う人物ではないこと、③自分で自分をファンであると認識していることとしている。

#### 問題と目的

これまでのファン心理にまつわる研究は、ほとんどが社会学の立場(吉光、1997/辻、2001)や、社会心理学の立場(広沢・田中、1986・1989)からなされた研究である。そしてまたこれらの研究は、ファン心理の研究とはいっても、ある特定の対象へのファンを調査対象とした事例研究的な要素の強い研究であり、対象の別を問わず広く“ファン心理”の研究としてなされたものは、松井(1994)のまとめた『ファンとブームの社会心理学』における考察や、小城(2002a)によって行われた「ファン心理の探索的研究」などと、数は極めて少ない。また、松井や小城による研究についても、これらは社会調査的な要素が強い研究であり、そこから見出された心性における、発達の意味や臨床心理学的な見地との関連性については考察されていないという問題点を抱えている。

一方で、ファン心理における発達の意味や臨床心理学的な観点との関連については、実証的な研究ではないものの、考察として述べられたものが、いくつか存在している。馬場・小川・福島・山中(1987)は、青年期中期の発達課題を説明する中で、この時期の青年たちがアイドル歌手に熱狂して親衛隊に加わったりするという現象について、当該の年代で経験する親からの分離の体験が関係していると考察している。しかし、これらの報告は、前者の社会学、社会心理学的な研究とは対照的に、実証的な検討がなされたわけではなく、いずれも考察のレベルを超えないという点で問題を抱えている。

以上の問題点から、本研究では、以下の2点を目的とする。

1. 思春期・青年期のファン心理を実証的に明らかにする。
2. 当該の年代のファン心理とその発達課題との関連を見出す。

## 方 法

### 目 的

対象年齢を問わない自由記述式の予備調査を行い、ここから得られた知見、及び先行研究(小城、2002a・2002b)を元に、人々が好きな対象へ向ける気持ちを分類できるような質問紙を作成し、作成した質問紙による本調査を実施する。

### 本調査

実施時期及び手続き：2004年9月。各学校の都合により実施形態は異なる(ホームルームや授業時間、持ち帰り式など)。

調査対象者：公立中学校(4校・男子216名/女子184名/不明3名/計403名)、公立高等学校(2校・男子356名/女子335名/不明2名/計693名)、合計1096名。

質問紙：学校名・学年・性別・年齢を記入してもらう表紙、好きな対象についての質問項目(4項目)、好きな対象への気持ち尺度についての質問項目(46項目)、および自我同一性尺度(20項目)によって構成される、全部で5枚の質問紙調査を実施。

好きな対象についての質問項目とは、好きな対象名(自由記述)、好きな対象のカテゴリー(ミュージシャン/スポーツ選手/俳優・女優/アイドル/お笑い芸人/その他)、好きな対象の性別(男性/女性/その他)、好きな対象へのファン度(“とてもファンである”から“まったくファンではない”までの4件法)の4項目で構成されている。尺度の評定については、好きな対象への気持ち尺度では、“よく当てはまる”から“まったく当てはまらない”までの5段階尺度、多次元自我同一性尺度では、“よく当てはまる”から“まったく当てはまらない”までの7段階尺度によって評定している。

### 多次元自我同一性尺度

上述した質問紙と並行して、谷(2001)の作成した「多次元自我同一性尺度」を用いた。これは本研究の目的から、仮説の一つとして、「熱狂的なファンの中には自我の一部を自分自身ではなくファン対象にゆだねるという状態が存在するのではないか」と想定し、その検証を行うこととしたことによる。

## 結 果

### 自我同一性尺度について

自我同一性尺度については、先行研究に基づいて主因子法・プロマックス回転による因子分析を施し、4因子解を採択した(表1)。そして、この結果をもとに各個人の尺度得点を算出し、因子ごとに学年・性別を要因とした比較検討のための分散分析を施した。その結果、第1因子については、学年による主効果( $F[5, 926] = 4.71, p < .01$ )と学年×性別による交互作用( $F[5, 926] = 2.76, p < .05$ )、第3因子については性別による主効果( $F[1, 962] = 7.74, p < .01$ )、第4因子については学年×性別の交互作用( $F[5, 966] = 4.34, p < .01$ )、合計得点については学年( $F[5, 899] = 2.43, p < .05$ )、性別( $F[1, 899] = 4.41, p < .05$ )による主効果と学年×性別の交互作用( $F[5, 899] = 3.16, p < .01$ )が見られた(得点については表2)。

### 好きな対象への気持ち尺度について

属性、性別、好きな対象の分類、ファン度を要因とした人数による分析学年(中学生・高校生)、性別、好きな対象のカテゴリー、好きな対象の性別、好きな対象へのファン度を要因とした人数によるクロス表を作成した(表3・4)。

### 因子分析

好きな対象への気持ち尺度46項目について、重み付け最小2乗法を用いた因子分析を施した。この結果から、初期の固有値の減衰状況や内容の解釈の可能性などを検討しつつ、因子数を10としてプロマックス回転を施した。その結果、10因子解が妥当であると判断し採択した(表5)。それぞれの因子については、第1因子「なりたい対象への気持ち」、第2因子「人生、生活への被影響感・生きがい/犠牲的好意」、第3因子「作品への評価/恒常的な好意」、第4因子「恋愛感情様相」、第5因子「外見への好意」、第6因子「同対象への好意を持つもの同士がコミュニケーションを楽しむ気持ち」、第7因子「類似性・同一視/人間性への関心」、第8因子「私生活への関心」、第9因子「流行への同調心」、第10因子「流行への反発心/独占願望」と命名した。

### ファン群/非ファン群を要因としたt検定

抽出された10因子それぞれについて、各個人の因子

表1 多次元自我同一性尺度 因子パターン (主因子法・プロマックス回転後)

番号	項 目	F 1	F 2	F 3	F 4	共通性
I	自己斉一性・連続性					
A 9 *	いつのまにか自分が自分でなくなってしまったような気がする。	0.85	-0.13	0.00	-0.08	0.61
A 13 *	今のままでは次第に自分を失っていつてしまうような気がする。	0.84	0.00	-0.05	-0.09	0.60
A 17 *	「自分がない」と感じることもある。	0.75	0.08	0.06	-0.08	0.58
A 5 *	過去に自分自身を置き去りにしてきたような気がする。	0.70	-0.17	0.08	0.04	0.52
A 1 *	過去において自分をなくしてしまったように感じる。	0.69	-0.17	0.05	0.09	0.55
B 18 *	自分が何を望んでいるのかわからなくなることがある。	0.65	0.38	-0.10	-0.02	0.61
B 14 *	自分が何をしたいのかよくわからないと感じるときがある。	0.49	0.32	-0.17	0.08	0.40
C 19 *	人前での自分は、本当の自分ではないような気がする。	0.48	0.03	0.01	0.34	0.57
D 16 *	自分らしく生きてゆくことは、現実の社会の中では難しいだろうと思う。	0.47	-0.06	0.30	0.01	0.38
D 20 *	自分の本当の能力を生かせる場所が社会にはないような気がする。	0.46	0.10	0.20	-0.07	0.32
II	対自的同一性					
B 6	自分がどうなりたいのかはっきりしている。	-0.05	0.83	-0.04	0.05	0.64
B 2	自分が望んでいることがはっきりしている。	-0.06	0.80	0.01	-0.03	0.62
B 10	自分のすべきことがはっきりしている。	0.03	0.67	0.16	-0.04	0.59
III	心理社会的同一性					
D 8	現実の社会の中で、自分らしい生活が送れる自信がある。	0.02	0.00	0.87	0.04	0.79
D 4	現実の社会の中で、自分らしい生き方ができると思う。	0.11	-0.01	0.73	-0.02	0.59
D 12	現実の社会の中で自分の可能性を十分に実現できると思う。	-0.06	0.31	0.48	0.03	0.47
IV	対他的同一性					
C 3 *	自分の周りの人々は、本当の私をわかっていないと思う。	0.04	-0.06	-0.05	0.83	0.71
C 7	自分は周囲の人々によく理解されていると感じる。	-0.21	0.13	0.26	0.63	0.44
C 11 *	人に見られている自分と本当の自分は一致しないと感じる。	0.29	-0.07	-0.15	0.56	0.55
C 15 *	本当の自分は人には理解されないだろう。	0.37	0.01	0.05	0.42	0.54
寄与率 (%)		34.12	12.74	4.63	3.77	

A～Dのアルファベットは谷による下位尺度 A：自己斉一性・連続性 B：対自的同一性 C：対他的同一性 D：心理社会的同一性  
 \*がついている項目は、逆転項目を示す。

因子間相関

	自己斉一性・連続性	対自的同一性	心理社会的同一性	対他的同一性
自己斉一性・連続性	1.000			
対自的同一性	.273	1.000		
心理社会的同一性	.432	.512	1.000	
対他的同一性	.627	.113	.266	1.000

表2 自我同一性尺度 各因子における平均得点と合計得点

第1因子「自己同一性・連続性」					第2因子「対自的同一性」					第3因子「心理社会的同一性」				
学年	性別	平均値	標準偏差	人数	学年	性別	平均値	標準偏差	人数	学年	性別	平均値	標準偏差	人数
中1	男子	4.71	1.32	105	中1	男子	4.24	1.49	110	中1	男子	3.98	1.40	109
	女子	4.50	1.35	62		女子	4.37	1.38	72		女子	3.97	1.29	70
	合計	4.63	1.33	167		合計	4.29	1.45	182		合計	3.97	1.35	179
中2	男子	4.95	1.16	44	中2	男子	4.25	1.49	53	中2	男子	4.03	1.31	51
	女子	4.26	1.43	56		女子	4.16	1.57	59		女子	3.73	1.10	58
	合計	4.56	1.36	100		合計	4.20	1.52	112		合計	3.87	1.21	109
中3	男子	4.58	1.23	29	中3	男子	4.98	1.39	30	中3	男子	4.59	1.05	30
	女子	4.07	1.20	39		女子	4.28	1.16	40		女子	3.80	1.12	40
	合計	4.29	1.23	68		合計	4.58	1.30	70		合計	4.14	1.15	70
高1	男子	4.14	1.31	77	高1	男子	4.15	1.85	82	高1	男子	3.90	1.46	81
	女子	4.45	1.40	94		女子	4.06	1.44	96		女子	3.76	1.31	95
	合計	4.31	1.36	171		合計	4.10	1.64	178		合計	3.82	1.38	176
高2	男子	4.08	1.22	164	高2	男子	4.17	1.50	169	高2	男子	4.01	1.22	170
	女子	4.16	1.16	161		女子	4.00	1.43	162		女子	3.78	1.20	161
	合計	4.12	1.19	325		合計	4.09	1.47	331		合計	3.90	1.21	331
高3	男子	4.04	1.38	54	高3	男子	4.44	1.79	56	高3	男子	4.16	1.34	56
	女子	4.16	1.28	53		女子	4.33	1.38	53		女子	4.09	1.15	53
	合計	4.10	1.33	107		合計	4.39	1.60	109		合計	4.13	1.25	109
合計	男子	4.33	1.31	473	合計	男子	4.27	1.59	500	合計	男子	4.04	1.32	497
	女子	4.27	1.29	465		女子	4.14	1.42	482		女子	3.83	1.21	477
	合計	4.30	1.30	938		合計	4.21	1.51	982		合計	3.94	1.27	974

  

第4因子「対他的同一性」					合計得点				
学年	性別	平均値	標準偏差	人数	学年	性別	平均値	標準偏差	人数
中1	男子	3.89	1.29	111	中1	男子	87.09	18.90	100
	女子	3.58	1.20	70		女子	83.13	21.43	60
	合計	3.77	1.26	181		合計	85.61	19.91	160
中2	男子	4.20	1.20	51	中2	男子	91.23	18.46	43
	女子	3.65	1.39	58		女子	79.76	21.57	55
	合計	3.90	1.33	109		合計	84.80	20.96	98
中3	男子	3.85	1.42	29	中3	男子	90.37	20.40	27
	女子	3.47	1.12	40		女子	78.54	18.34	39
	合計	3.63	1.26	69		合計	83.38	19.94	66
高1	男子	3.35	1.20	82	高1	男子	78.79	22.59	75
	女子	3.86	1.36	96		女子	83.09	22.85	93
	合計	3.63	1.31	178		合計	81.17	22.77	168
高2	男子	3.56	1.11	170	高2	男子	79.14	18.71	160
	女子	3.75	1.14	162		女子	80.06	20.08	155
	合計	3.65	1.12	332		合計	79.59	19.37	315
高3	男子	3.39	1.23	56	高3	男子	79.96	22.73	54
	女子	3.75	1.18	53		女子	82.50	20.02	50
	合計	3.56	1.21	109		合計	81.18	21.41	104
合計	男子	3.66	1.23	499	合計	男子	82.71	20.45	459
	女子	3.71	1.23	479		女子	81.19	20.85	452
	合計	3.69	1.23	978		合計	81.95	20.65	911

表3 好きな対象への気持ち尺度への回答者の属性、性別、ファン／非ファン、対象の性別による人数

		ファン			非ファン			合 計
		同 性	異 性	その他	同 性	異 性	その他	
中学生	男子	140	6	2	46	0	1	195
	女子	43	96	6	14	11	0	170
	合計	183	102	8	60	11	1	365
高校生	男子	223	27	18	34	2	0	304
	女子	65	202	12	15	14	2	310
	合計	288	229	30	49	16	2	614

単位：人数

表4 好きな対象への気持ち尺度への回答者のファン／非ファン、性別、対象の性別、対象の分類による人数

			ミュージシャン	スポーツ選手	俳優・女優	アイドル	お笑い芸人	その他	合 計
ファン	男子	同性	161	134	11	0	44	12	362
		異性	13	2	8	1	0	7	31
	女子	同性	57	7	19	10	4	9	106
		異性	161	34	46	26	24	4	295
	合 計		392	177	84	37	72	32	794
非ファン	男子	同性	12	18	6	1	39	4	80
		異性	2	0	0	0	0	0	2
	女子	同性	18	2	4	2	1	1	28
		異性	12	2	6	0	4	0	24
	合 計		44	22	16	3	44	5	134

単位：人数

表5 好きな対象への気持ち尺度因子パターン（重み付け最小2乗法・プロマックス回転）

番号	項 目	F 1	F 2	F 3	F 4	F 5	F 6	F 7	F 8	F 9	F 10	共通性
第1因子「なりたい対象への気持ち」												
26	その人(たち)のようになりたい。	0.97	-0.07	0.01	-0.07	0.05	-0.03	-0.1	0.01	-0.05	0.00	0.75
32	その人(たち)は自分の目標とした人物である。	0.92	-0.12	0.01	-0.01	0.04	-0.03	0.07	0.00	-0.02	-0.01	0.78
1	その人(たち)にあこがれている。	0.85	0.04	-0.02	0.12	0.06	0.01	-0.16	-0.06	0.05	-0.13	0.68
30	その人(たち)を参考にしている、あるいはその人(たち)の真似をしている部分がある。	0.66	0.08	0.01	-0.16	-0.03	0.09	0.02	0.02	0.03	0.17	0.59
17	その人(たち)を尊敬している。	0.66	0.03	0.23	0.12	-0.10	-0.01	0.00	-0.06	0.03	-0.08	0.66
45	その人(たち)のような生き方をしたい。	0.58	0.09	-0.07	0.02	-0.03	-0.03	0.23	0.05	-0.09	-0.05	0.57
第2因子「人生、生活への被影響感・生きがい／犠牲的善意」												
16	その人(たち)のいない人生は考えられない。	-0.08	0.87	-0.05	0.08	0.03	-0.03	0.05	-0.04	0.00	-0.07	0.69
41	その人(たち)のためなら、たいていのことは我慢できる。	-0.03	0.74	0.08	0.10	0.02	-0.08	0.04	-0.05	-0.08	0.04	0.63
27	その人(たち)がいることで、生きている実感が得られるように思う。	0.04	0.66	-0.06	-0.07	0.02	-0.01	0.27	-0.05	-0.07	-0.03	0.60
35	その人(たち)がいなくなっても、自分はいった影響を受けないと思う。(逆転)	0.09	0.66	-0.08	-0.09	-0.01	-0.07	-0.13	0.18	0.23	-0.16	0.46
2	その人(たち)がいなくなったら、毎日が物足りなくなると思う。	-0.01	0.65	0.07	0.07	-0.09	0.08	0.04	-0.03	0.08	-0.14	0.55
13	1日1回はその人(たち)のことを考える。	-0.06	0.64	0.04	0.05	0.03	0.10	-0.01	0.08	0.02	0.01	0.59
8	自分の予定を犠牲にしても、その人(たち)に関することを優先させたい。	-0.03	0.59	0.01	0.34	-0.08	0.05	-0.10	0.00	0.05	0.11	0.60
19	その人(たち)は、自分の人生に強い影響を与えていると思う。	0.29	0.47	0.00	-0.02	-0.01	0.09	0.14	-0.05	0.11	-0.02	0.68
42	その人(たち)に関することならば何でも知りたい。	0.04	0.36	0.17	0.00	0.05	0.02	-0.04	0.29	-0.12	0.10	0.55
第3因子「作品への評価／恒常的な善意」												
5	その人(たち)の作品(歌・演技・プレーなど)が好きである。	-0.04	-0.07	0.67	-0.20	0.03	0.14	0.03	-0.03	0.04	0.02	0.41
14	その人(たち)の作品(歌・演技・プレーなど)には、あまり関心がない。(逆転)	-0.06	0.11	0.63	-0.30	0.00	0.06	-0.12	0.00	0.07	0.02	0.31
29	その人(たち)を、どんなことがあっても応援し続けたいと思う。	0.07	0.34	0.62	0.01	0.01	-0.04	-0.05	-0.10	-0.06	0.07	0.65
39	この先、その人(たち)がどのように変化していても、自分は好きでいつづけると思う。	-0.05	0.21	0.51	0.04	0.06	-0.07	0.10	-0.06	-0.03	0.08	0.45
10	その人(たち)は、その分野(スポーツ選手ならスポーツ、俳優なら演技など)で価値のある仕事をしていると思う。	0.25	-0.06	0.51	0.03	-0.08	0.01	-0.05	-0.05	-0.08	-0.22	0.38
第4因子「恋愛感情様相」												
7	自分のその人(たち)に対する気持ちは、恋愛感情に近い。	-0.02	0.19	-0.18	0.80	-0.04	-0.01	-0.02	-0.04	-0.02	0.06	0.60
11	その人(たち)は、彼氏(または彼女)にしたいタイプである。	-0.06	-0.02	-0.14	0.76	0.15	0.07	0.03	-0.03	0.00	0.06	0.65
4	その人(たち)には結婚しないでもいい、(すでに結婚しているならば)しないで欲しかった。	0.03	0.11	-0.19	0.63	0.06	0.02	-0.15	0.03	-0.08	0.12	0.43
第5因子「外見への善意」												
20	その人(たち)の顔が好きである。	0.04	0.04	-0.07	0.08	0.90	-0.03	-0.10	0.01	-0.02	-0.02	0.82
25	その人(たち)の見た目が好きである。	-0.04	-0.05	0.10	0.00	0.82	-0.03	0.02	-0.02	-0.10	0.06	0.88
33	その人(たち)のファッションが好きである。	0.09	0.03	-0.04	0.01	0.56	0.03	0.12	-0.03	0.07	0.11	0.46
第6因子「同対象への善意を持つもの同士がコミュニケーションを楽しむ気持ち」												
12	同じその人(たち)を好きな人たち同士で気持ちが共有できるとうれしい。	-0.07	-0.14	0.22	0.11	-0.05	0.66	0.08	0.11	-0.02	-0.02	0.65
3	同じその人(たち)を好きな人を見つけるとうれしくなる。	0.04	-0.08	0.10	0.15	-0.07	0.60	0.03	0.05	0.06	-0.08	0.51
18	その人(たち)を好きになったことで、友達が増えた。	0.06	0.31	-0.07	-0.04	0.07	0.50	0.06	-0.13	-0.01	0.03	0.51
23	家族・友人にその人(たち)を好きな人がいて、自分もそれに影響されて好きになった。	-0.09	0.05	0.02	-0.08	-0.01	0.41	0.14	-0.11	-0.17	-0.02	0.21
28	友人と、その人(たち)に関する話をすることが多い。	0.07	0.38	0.01	-0.08	0.07	0.38	-0.07	0.02	-0.05	-0.01	0.44

第7 因子「類似性・同一視／人間性への関心」												
38	その人(たち)が自分の気持ちを代弁してくれていると思うことがある。	-0.07	0.18	-0.04	-0.17	0.00	0.10	0.67	-0.06	0.06	0.03	0.50
46	その人(たち)には、なにか自分と同じものを感じる。	0.26	-0.02	-0.15	-0.05	-0.09	0.02	0.61	0.06	-0.04	0.19	0.53
24	その人(たち)には、親近感を感じる。	-0.08	-0.02	-0.05	0.12	-0.03	0.18	0.59	0.01	-0.14	0.11	0.46
31	その人(たち)には、共感できる要素が多い。	0.18	0.03	0.07	-0.09	-0.01	0.04	0.57	0.01	0.06	0.07	0.60
37	その人(たち)は、内面的に魅力があると思う。	0.03	-0.12	0.26	0.06	0.12	-0.07	0.49	0.00	0.08	-0.04	0.52
21	その人(たち)の人間性にひかれている。	0.03	0.02	0.16	0.13	0.12	0.00	0.44	0.06	0.04	-0.17	0.63
22	その人(たち)に、自分を重ね合わせてみていることがある。	0.34	0.05	-0.16	-0.02	0.04	0.01	0.41	0.04	0.00	0.15	0.50
第8 因子「私生活への関心」												
40	その人(たち)の私生活には興味がない。(逆転)	-0.02	-0.01	-0.13	-0.03	-0.04	-0.04	-0.02	1.00	0.02	-0.01	0.78
15	その人(たち)が普段どのような生活をしているのか興味がある。	0.08	0.07	0.07	0.02	0.07	0.04	0.00	0.56	-0.10	0.04	0.57
43	その人(たち)自身の人柄には、あまり興味がない。(逆転)	-0.11	0.11	0.11	0.00	0.04	-0.09	0.18	0.38	0.06	-0.19	0.37
第9 因子「流行への同調心」												
34	その人(たち)の人气が今ほどでなかったら、それほど好きではなかったと思う。	0.02	0.00	-0.19	0.04	-0.05	0.02	0.09	-0.04	-0.69	-0.28	0.45
44	テレビなどでよく見るようになって、だんだんと好きになった。	0.04	-0.08	0.12	0.06	0.14	0.11	-0.09	0.04	-0.63	-0.25	0.35
第10因子「流行への反発心／独占願望」												
6	その人(たち)が有名でないところから応援している。	0.05	-0.14	0.10	0.20	0.05	0.03	-0.01	0.01	0.37	0.53	0.31
36	その人(たち)には、あまり有名になって欲しくない。	-0.07	-0.04	-0.10	0.07	0.08	-0.03	0.16	-0.05	0.24	0.49	0.22
9	ほかのその人(たち)を好きな人と、自分を一緒にして欲しくない。	0.06	0.11	0.14	0.33	-0.15	-0.16	0.07	0.04	-0.05	0.34	0.35
寄与率 (%)		30.65	5.95	3.88	3.16	2.64	2.00	1.92	1.27	1.13	1.04	

因子間相関

因子名	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子	第5因子	第6因子	第7因子	第8因子	第9因子	第10因子
第1因子	1.00	.60	.57	.27	.36	.39	.63	.44	.12	.04
第2因子		1.00	.57	.51	.38	.54	.62	.51	.09	.29
第3因子			1.00	.50	.48	.48	.59	.47	.30	-.13
第4因子				1.00	.61	.32	.42	.50	.14	.03
第5因子					1.00	.37	.50	.53	.08	-.07
第6因子						1.00	.50	.32	.15	.09
第7因子							1.00	.46	.16	.07
第8因子								1.00	.10	.00
第9因子									1.00	-.43
第10因子										1.00

得点を算出し、ファン群と非ファン群との間の因子得点による平均値の差の検定を施した。その結果、全ての因子において有意差が見られ、第1～9因子までの因子ではファン群が高い値を示し（第1因子  $t[783] = 10.66$ ,  $p < .01$  / 第2因子  $t[783] = 10.37$  / 第3因子  $t[783] = 14.63$  / 第4因子  $t[783] = 8.10$  / 第5因子  $t[783] = 7.47$  / 第6因子  $t[783] = 10.89$  / 第7因子  $t[783] = 9.79$  / 第8因子  $t[783] = 8.26$  / 第9因子  $t[783] = 6.63$ ）、第10因子については非ファン群 ( $t[783] = -2.29$ ) が高い値を示した（得点については表6）。

表6 因子ごとのファン群／非ファン群の得点

第1因子「なりたい対象への気持ち」		
	ファン群	非ファン群
平均値	0.13	-0.86
標準偏差	0.91	0.90

第2因子「人生、生活への被影響感・生きがい／犠牲的好み」		
	ファン群	非ファン群
平均値	0.13	-0.84
標準偏差	0.95	0.51

第3因子「作品への評価／恒常的な好み」		
	ファン群	非ファン群
平均値	0.17	-1.07
標準偏差	0.80	0.94

第4因子「恋愛感情様相」		
	ファン群	非ファン群
平均値	0.11	-0.64
標準偏差	0.93	0.62

第5因子「外見への好み」		
	ファン群	非ファン群
平均値	0.10	-0.61
標準偏差	0.91	0.95

については表7)。

第6因子「同対象への好意を持つもの同士が  
コミュニケーションを楽しむ気持ち」

	ファン群	非ファン群
平均値	0.13	-0.81
標準偏差	0.85	0.74

第7因子「類似性・同一視／人間性への関心」

	ファン群	非ファン群
平均値	0.12	-0.77
標準偏差	0.89	0.79

第8因子「私生活への関心」

	ファン群	非ファン群
平均値	0.11	-0.66
標準偏差	0.90	0.91

第9因子「流行への同調心」

	ファン群	非ファン群
平均値	0.07	-0.47
標準偏差	0.80	0.72

第10因子「流行への反発心／独占願望」

	ファン群	非ファン群
平均値	-0.03	0.16
標準偏差	0.80	0.79

#### ファン群における属性、性別、対象の性別を要因とした分散分析

ファン群に対して、被験者の属性(中学生・高校生)、被験者の性別、対象の性別を要因とする因子得点の平均値の差を見るため、3要因の分散分析を行った。

その結果、第1因子については対象の性別 ( $F[1, 632] = 10.09, p < .01$ )、第3因子については属性 ( $F[1, 632] = 4.26, p < .05$ )、第4因子については性別 ( $F[1, 632] = 8.14, p < .01$ )、対象の性別 ( $F[1, 632] = 46.00, p < .01$ )、第5因子については性別 ( $F[1, 632] = 31.19, p < .01$ )、属性×性別×対象の性別の交互作用 ( $F[1, 632] = 5.34, p < .05$ )、第6因子については対象の性別 ( $F[1, 632] = 5.61, p < .05$ )、第7因子については属性 ( $F[1, 632] = 12.42, p < .01$ )、性別 ( $F[1, 632] = 5.00, p < .05$ )、属性×性別×対象の性別の交互作用 ( $F[1, 632] = 4.40, p < .05$ )、第8因子については性別 ( $F[1, 632] = 9.49, p < .01$ )、属性×性別×対象の性別の交互作用 ( $F[1, 632] = 7.30, p < .01$ )、第9因子については属性 ( $F[1, 632] = 13.52, p < .01$ )、属性×対象の性別の交互作用 ( $F[1, 632] = 5.43, p < .05$ )、第10因子については属性 ( $F[1, 632] = 4.68, p < .05$ )、性別 ( $F[1, 632] = 7.19, p < .01$ )、対象の性別 ( $F[1, 632] = 5.32, p < .05$ ) による有意差が見られた(得点

表7 属性、性別、対象の性別を要因とする因子得点表

第1因子「なりたい対象への気持ち」				
属性	性別	対象の性別		合計
		同性	異性	
中学生	男子	0.22 (1.03)	-0.49 (0.49)	0.18 (1.02)
	女子	0.07 (0.72)	-0.01 (0.95)	0.01 (0.89)
	合計	0.18 (0.97)	-0.05 (0.94)	0.10 (0.96)
高校生	男子	0.32 (0.87)	-0.08 (1.04)	0.27 (0.90)
	女子	0.38 (0.79)	-0.06 (0.86)	0.04 (0.86)
	合計	0.33 (0.85)	-0.07 (0.88)	0.15 (0.89)
合計	男子	0.28 (0.93)	-0.15 (0.97)	0.24 (0.94)
	女子	0.27 (0.78)	-0.05 (0.89)	0.03 (0.87)
	合計	0.28 (0.90)	-0.06 (0.89)	0.14 (0.91)

第2因子「人生、生活への被影響・  
生きがい／犠牲的好意」

属性	性別	対象の性別		合計
		同性	異性	
中学生	男子	0.08 (0.84)	0.05 (0.53)	0.08 (0.82)
	女子	-0.09 (0.99)	0.33 (1.07)	0.20 (1.06)
	合計	0.04 (0.87)	0.31 (1.04)	0.14 (0.94)
高校生	男子	0.08 (0.83)	0.24 (1.00)	0.10 (0.84)
	女子	-0.05 (1.06)	0.23 (1.06)	0.17 (1.06)
	合計	0.05 (0.88)	0.23 (1.05)	0.13 (0.96)
合計	男子	0.08 (0.83)	0.21 (0.92)	0.09 (0.84)
	女子	-0.06 (1.03)	0.26 (1.06)	0.18 (1.06)
	合計	0.05 (0.88)	0.25 (1.05)	0.14 (0.96)

第3因子「作品への評価／恒常的な好意」

属性	性別	対象の性別		合計
		同性	異性	
中学生	男子	-0.12 (0.85)	-0.14 (0.51)	-0.12 (0.83)
	女子	0.01 (0.69)	0.23 (0.88)	0.16 (0.83)
	合計	-0.09 (0.81)	0.20 (0.86)	0.02 (0.84)
高校生	男子	0.19 (0.75)	0.15 (0.88)	0.18 (0.76)
	女子	0.24 (0.72)	0.32 (0.77)	0.30 (0.76)
	合計	0.20 (0.74)	0.30 (0.79)	0.25 (0.76)
合計	男子	0.08 (0.80)	0.10 (0.82)	0.08 (0.80)
	女子	0.16 (0.71)	0.30 (0.80)	0.26 (0.78)
	合計	0.10 (0.78)	0.28 (0.81)	0.17 (0.79)

第4因子「恋愛感情様相」

属性	性別	対象の性別		合計
		同性	異性	
中学生	男子	-0.41 (0.54)	0.36 (1.02)	-0.38 (0.59)
	女子	-0.14 (0.50)	0.76 (1.16)	0.49 (1.08)
	合計	-0.35 (0.55)	0.73 (1.15)	0.05 (0.97)
高校生	男子	-0.36 (0.50)	0.55 (0.78)	-0.26 (0.61)
	女子	0.15 (0.68)	0.68 (1.04)	0.55 (0.99)
	合計	-0.25 (0.58)	0.66 (1.01)	0.16 (0.92)
合計	男子	-0.38 (0.52)	0.51 (0.81)	-0.30 (0.60)
	女子	0.04 (0.63)	0.70 (1.07)	0.53 (1.02)
	合計	-0.28 (0.57)	0.69 (1.05)	0.12 (0.94)

第5因子「外見への好意」

属性	性別	対象の性別		合計
		同性	異性	
中学生	男子	-0.29 (0.82)	-0.40 (1.10)	-0.29 (0.83)
	女子	0.40 (0.59)	0.47 (0.90)	0.45 (0.82)
	合計	-0.13 (0.83)	0.41 (0.93)	0.07 (0.90)
高校生	男子	-0.30 (0.85)	0.28 (0.83)	-0.23 (0.86)
	女子	0.75 (0.67)	0.38 (0.90)	0.47 (0.87)
	合計	-0.06 (0.92)	0.37 (0.89)	0.13 (0.93)
合計	男子	-0.29 (0.84)	0.16 (0.90)	0.25 (0.85)
	女子	0.62 (0.66)	0.41 (0.90)	0.46 (0.85)
	合計	-0.09 (0.89)	0.38 (0.90)	0.11 (0.92)

第6因子「同対象への好意を持つもの同士がコミュニケーションを楽しむ気持ち」

属性	性別	対象の性別		合計
		同性	異性	
中学生	男子	-0.20 (0.85)	0.24 (0.51)	-0.18 (0.84)
	女子	-0.09 (0.91)	0.26 (0.86)	0.15 (0.89)
	合計	-0.18 (0.86)	0.26 (0.84)	-0.02 (0.88)
高校生	男子	0.10 (0.87)	0.12 (0.74)	0.10 (0.85)
	女子	0.05 (0.84)	0.37 (0.77)	0.30 (0.79)
	合計	0.09 (0.86)	0.34 (0.76)	0.20 (0.83)
合計	男子	-0.01 (0.87)	0.14 (0.69)	0.00 (0.86)
	女子	0.00 (0.87)	0.34 (0.79)	0.25 (0.83)
	合計	-0.01 (0.87)	0.32 (0.79)	0.13 (0.85)

第7因子「類似性・同一視／人間性への関心」

属性	性別	対象の性別		合計
		同性	異性	
中学生	男子	-0.16 (0.83)	-0.52 (0.36)	-0.18 (0.82)
	女子	-0.20 (0.57)	0.14 (0.94)	0.04 (0.86)
	合計	-0.17 (0.78)	0.10 (0.93)	-0.07 (0.84)
高校生	男子	0.10 (0.91)	0.16 (1.02)	0.11 (0.92)
	女子	0.54 (0.86)	0.23 (0.87)	0.30 (0.88)
	合計	0.20 (0.92)	0.22 (0.89)	0.21 (0.90)
合計	男子	0.01 (0.89)	0.04 (0.97)	0.01 (0.90)
	女子	0.27 (0.84)	0.21 (0.89)	0.22 (0.88)
	合計	0.07 (0.89)	0.19 (0.90)	0.12 (0.89)

第8因子「私生活への関心」

属性	性別	対象の性別		合計
		同性	異性	
中学生	男子	0.04 (0.87)	-0.63 (0.70)	0.01 (0.87)
	女子	0.07 (0.81)	0.49 (1.00)	0.36 (0.96)
	合計	0.05 (0.85)	0.42 (1.02)	0.18 (0.93)
高校生	男子	-0.09 (0.92)	0.16 (0.80)	-0.07 (0.91)
	女子	0.26 (0.76)	0.22 (0.86)	0.23 (0.83)
	合計	-0.02 (0.89)	0.22 (0.85)	0.09 (0.88)
合計	男子	-0.05 (0.90)	0.02 (0.83)	-0.04 (0.89)
	女子	0.19 (0.78)	0.30 (0.91)	0.27 (0.88)
	合計	0.01 (0.88)	0.27 (0.90)	0.12 (0.90)



第9因子「流行への同調心」					第10因子「流行への反発心／独占願望」				
属性	性別	対象の性別		合計	属性	性別	対象の性別		合計
		同性	異性				同性	異性	
中学生	男子	-0.41 (0.81)	0.22 (1.47)	-0.38 (0.86)	中学生	男子	0.15 (0.68)	0.54 (0.75)	0.17 (0.69)
	女子	-0.37 (0.69)	0.17 (0.73)	0.23 (0.72)		女子	-0.14 (0.75)	0.08 (0.91)	0.01 (0.87)
	合計	-0.40 (0.78)	-0.15 (0.79)	-0.30 (0.79)		合計	0.08 (0.71)	0.11 (0.91)	0.09 (0.78)
高校生	男子	0.21 (0.74)	0.07 (0.95)	0.19 (0.77)	高校生	男子	-0.05 (0.76)	0.11 (0.67)	-0.03 (0.75)
	女子	0.34 (0.74)	0.28 (0.73)	0.29 (0.73)		女子	-0.34 (0.80)	-0.06 (0.84)	-0.13 (0.84)
	合計	0.24 (0.74)	0.25 (0.76)	0.24 (0.75)		合計	-0.12 (0.78)	-0.04 (0.82)	-0.08 (0.80)
合計	男子	-0.01 (0.82)	0.10 (1.03)	0.00 (0.84)	合計	男子	0.02 (0.74)	0.18 (0.69)	0.03 (0.74)
	女子	0.08 (0.79)	0.15 (0.76)	0.13 (0.77)		女子	-0.27 (0.78)	-0.02 (0.86)	-0.09 (0.85)
	合計	0.01 (0.81)	0.14 (0.79)	0.07 (0.81)		合計	-0.05 (0.78)	0.00 (0.85)	-0.03 (0.80)

好きな対象への気持ち尺度と多次元自我同一性尺度との相関分析

仮説の検証として、高校生ファン群に対して、多次

元自我同一性尺度の尺度得点（合計得点も含む）と好きな対象への気持ち尺度の因子得点との相関分析を施した（表8）。

表8 高校生ファン群における自我同一性尺度 × 好きな対象への気持ち尺度の因子間相関

	第1因子 自己斉一性・連続性	第2因子 対自的同一性	第3因子 心理社会的同一性	第4因子 対他的同一性	合計得点
第1因子 「なりたい対象への気持ち」	** -.19	* -.10	-.01	** -.13	** -.13
第2因子 「人生、生活への影響・生きがい／犠牲的好意」	** -.20	.06	* -.10	** -.14	** -.16
第3因子 「作品への評価／恒常的好意」	-.03	*.10	.04	.04	.01
第4因子 「恋愛感情様相」	.02	*.12	.05	.08	.06
第5因子 「外見への好意」	.03	** .13	.08	** .15	*.10
第6因子 「同対象への好意を持つもの同士がコミュニケーションを楽しむ気持ち」	** -.13	.07	.00	.00	-.07
第7因子 「類似性・同一視／人間性への関心」	** -.15	** .14	.03	-.04	-.07
第8因子 「私生活への関心」	* -.10	.05	-.02	-.07	-.07
第9因子 「流行への同調心」	.06	.02	.05	.00	.06
第10因子 「流行への反発心／独占願望」	** -.17	.03	-.04	** -.20	** -.15

\*\*  $p < .01$  \*  $p < .05$

## 考 察

### ファン群における因子構造

ファン群について施した 3 要因の分散分析の結果について、以下に特徴的であった因子のみを考察する。

#### 第 1 因子「なりたい対象への気持ち」

第 1 因子「なりたい対象への気持ち」については、同性対象を選択している人の得点が高いという結果が得られており、これは、ファン対象が同性である方が自分の理想として掲げやすいということを示唆していると考えられる。また、その他の要因に差がないことから、対象を“なりたい対象”とみなす気持ちは、少なくとも中・高校生の間では、年齢や性別によって異なるものではなく、共通して見られる気持ちであるということが示唆されている。

#### 第 2 因子「人生、生活への被影響感・生きがい／犠牲的好意」

第 2 因子「人生、生活への被影響感・生きがい／犠牲的好意」については、いずれの差も見出されなかったことから、対象が“人生”、“生活”に影響を与えていると感じたり、“生きがい”であると感じたり、また、対象に“犠牲的好意”を持つということは、属性や性別や対象の性別に規定されるものではなく、広く見られるものであるということがわかる。

また、本因子は好きな対象への気持ちにおける“熱狂的”と形容される心性を表した因子であると考えられることから、何らかの要因に本因子との関連を見出すことで、“熱狂的”ファン、ひいては臨床的な観点からとらえる必要のあるファンを規定する要因の理解が深まるのではないかと考えていたのだが、自我同一性との関連も含めて、本研究ではいずれの関係も見出すことが出来なかった。

#### 第 4 因子「恋愛感情様相」

第 4 因子「恋愛感情様相」について、まず対象の性別による差は、恋愛感情を向ける相手として異性が選ばれやすい傾向にあったという結果であり、妥当なものであったと考えられる。

一方、性別による差として女子の得点が高かったことについては、現実の恋愛観による差の反映であったと考えることができる。これは、宮武・鈴木・松井・井上(1996)による中学生の恋愛についての調査から、異

性に対する関心は女子の発達が早いという結果が得られており、本調査の結果も、この傾向が反映されたのだと考えている。

しかし、本研究ではこれ以外の要因として、男子における本因子への回答しにくさが反映されたのではないかと考えている。つまり、社会的な風潮として、女性が異性のファン対象へ恋愛感情的な気持ちを抱くことについては、年令を問わず、それほど否定的には受け止められない一方で、男性におけるファン対象への恋愛感情は社会的に許容されていないということによるものと考えている。このことが本因子において、現実の恋愛意識における差以上の性差を生み出した可能性が示唆されたのではないかと考えている。

#### 第 6 因子「同じ対象を好きな者同士がコミュニケーションを楽しむ気持ち」

第 6 因子「同じ対象を好きな者同士がコミュニケーションを楽しむ気持ち」については、対象の性別による差があり、異性対象を選択している群が高い得点を示した。この結果は、小城(2003)の行った研究の中でも、アイドルを対象としたファン心理が同様の構造を示しており、ある種のファン心理において一般化できる心性であると言えるようである。

これらの結果が示すものの一つの仮説として、Hurlock(1973)による異性愛に対する性愛行動の発達についての段階モデルを用いて考えることが出来る。この研究では、恋愛の発達のプロセスを 7 段階で示しており(表 9)、これによると恋愛感情の発達における段階Ⅰ「のぼせ上がり」と英雄崇拜の段階、段階Ⅱ「小犬の恋の段階」の示す恋愛とは、現実の異性愛というよりも、非現実的で理想化された空想的なイメージの中の異性愛であると言うことができ、これは現実の発達における中学生年代の恋愛を示していると言われている(斎藤、1996)。そして、この段階の恋愛は、そのような非現実的な対象への気持ちであるがゆえに、同じ対象を好きな者同士で、対象について語り合い、気持ちを共有しあうことが広く見られると考えられており(斎藤、1996)これが本因子の示す状態であると考えられる。そのため、本因子は恋愛感情様相とも両立して感じられる気持ちであるのだと考えることが出来る。

#### 第 7 因子「同一視・類似性／人間性への関心」

第 7 因子「同一視・類似性／人間性への関心」につ

表9 異性に対する性愛行動の発達  
(Hurlock：1973／福田：1990)

	段 階 名	内 容
I	のぼせ上がり と英雄崇拜の段階	個人的な接触を持つことの出来る年上の異性に強い愛着を感じ、のぼせ上がった、崇拜したりする。
II	子犬の恋の段階	ほぼ同年齢の異性への関心を、からかうとか大騒ぎするといったぎこちない形で表現する。
III	デートの段階	グループ同士でつきあったり、そのグループ内のメンバーどうし、1対1でデートする。
IV	ステディの段階	特定の異性を、はくの彼女、私の彼として好きになり、他人の異性とのつきあいさし控える。
V	ピンニングの段階	婚約の前段階。結婚を考えているが、最終的な決着とか婚約の発表はまだ控えている。お互いの理解の証として、男子が女子にピンを与える。
VI	婚約の段階	結婚を考えた2人が婚約する。男子は女子にエンゲージリングを与える。婚約の段階はふつうピンニングの段階より短い。
VII	結婚の段階	2人が結婚し、互いの永久的なコミットメントにより結合しようとする。

いては、属性の差があり、高校生の得点が高かった。この結果は、対象に自分との“類似性”を見出し“同一視”するという心理機制が、中学生よりも高校生に強く働いていることを示唆している。そしてこれは、そのような心理機制を働かせること自体が、中学生年代では難しいという中学生の発達的な未熟さととらえることが出来ると同時に、そのような心理機制を働かせることのできるような対象を“好きな対象”として選択するということが、中学生よりも高校生に見られるものであったということを示唆していると考えられる。後者としてとらえると、好きな対象にどのような意味を見出すのかという点が、中学生と高校生で異なることを示唆しており、本因子が高校生の発達課題と関連していることを示唆していると考えられる。

また、性別による差として、女子の得点が高かったという結果については、思春期・青年期における友人関係について考察される中で、女子の方が友人に対して、友人との類似性や、同一視を重要視する(岡本・松下、2002)と述べられていることから、女子の場合は、それが友人に限らず、好意を寄せる相手に全般に働いていることを示していると考えられる。

## 第9因子「流行への同調心」

### 第10因子「流行への同調心／独占願望」

第9因子「流行への同調心」、第10因子「流行への同調心／独占願望」については、いずれも好きな対象への気持ちにおける“流行”の及ぼす影響を扱った因子であり、相互に関係があると考えられるため、以下にまとめて考察する。

まず、属性については、第9因子は高校生が高く、第10因子は中学生が高い。この結果を考えるに当たって、第9因子とは、流行への同調心の“強さ”ではなく、流行への同調心の“自覚”を示すものであるとみなすと、本結果は、高校生が自分自身の対象への好意を、流行の影響を受けたものであるとの自覚を持っていること、あるいは、その自覚を認められているということが示唆されていると考える。一方、第10因子の結果をあわせて考えると、中学生は流行に対して“反発心”を持っているということが示唆されており、中学生も流行を意識していないわけではないことがわかる。ただ、中学生は自分たちが流行に左右されているとみなされることに對して、強い反発を感じている様子が窺い知れる。

また、この属性差についてのもう一つの解釈として、中・高校生の間での“流行”のとらえ方による差を示していると考えられることもできる。私たちが、“流行”という現象をとらえるためには、対象に対するさまざまな情報や、対象のみではなく対象の周囲を含めた広い視点などが必要とされる。これを、中学生よりも高校生の方が持ち合わせているということを示唆していると考えられる。

## 総合考察

“なりたい対象”と“恋愛対象”として存在するファン対象について本調査の結果をもとに、中・高校生のファン心理における特徴について考察すると、当該年代のファン心理において軸として機能しているのは、第1因子「なりたい対象への気持ち」と、第4因子「恋愛感情様相」の二因子であることが示唆された。この二因子はそれぞれ、前者は同性を対象とする中で、後者は異性を対象とする中でファン心理の主たる役割を果たしている。この結果は、小城(2002a)による研究で、ファン心理の主たる要素が「作品の評価」であると述べられているものと対照的な結果といえるが、小城の調査が大学生への調査であった点を考えると、本

調査では異なる結果が得られたということこそが、思春期・青年期心性の反映を表しているといえるのではないかと考えている。

特に前者の「なりたい対象への気持ち」については、Erikson (1959) や Blos (1962) によって当該年代の発達 の テーマとして掲げられている「同一化 (identification)」という心理機制をもとに考察すると、中・高校生が「同一化」する対象の一つとして、ファン対象が選択されている可能性を示唆していると考えることが出来る。これは、「同一化」とほぼ同義に使われる「同一視」を示す第7因子「類似性・同一視／人間性への関心」と、本因子との因子間相関が .63 と、比較的強い相関が示されたことから支持されている。

一方、後者のファン対象へ恋愛感情を向けるという現象は、この感情自体が当該年代に特有なわけではないと考えている。しかし、当該年代のファン心理における恋愛感情と、その他の年代のそれとは異なる様相なのではないかと考えている。それは、本研究の結果から、中学女子のファン対象への恋愛感情と高校女子のファン対象への恋愛感情との間で違いが見出されていることによる。

両者の違いのキーワードは第7因子「人間性への関心」ではないかと考えている。中学女子におけるファン対象への恋愛感情の中には、人間性への関心が高校生と比べて低いという結果が得られている。恋愛感情におけるこのような様相は、中学生の現実の恋愛に特徴的なものであると言われており(斎藤、1996)、この様相は、先に述べた Hurlock の説による段階Ⅰ・Ⅱの示す状態であることを考えると、つまり、現実の恋愛と非現実的な恋愛とが混在して存在している段階であると考えることができる。

一方、高校女子におけるファン対象への恋愛では、中学生と比べて人間性への関心が高まっており、このような様相とは、中学生で見られた現実と非現実とが混同している恋愛段階とは異なり、次段階へ移行したことを示唆していると考えることができる。つまり、高校女子では現実の恋愛とファン対象への恋愛は分けて捉えられているのだと考えることが出来る。その点で、中学生のファン対象への恋愛と高校生でのファン対象への恋愛とは、ともに高い値を示しているものの、その心理的な様相は異なるのではないかと考えている。そしておそらく、高校生で見られた様相が、当該年代以降にも見られるファン対象への恋愛の示す様相なのではないかと考えている。

## 思春期・青年期におけるファン対象とは

### —「青年期における移行対象」

氏原・東山・岡田(1990)は、青年期を支える働きをする何らかの大切な対象が存在する現象について「青年期における移行対象」という概念を用いて説明している。移行対象(transitional object)とは、Winnicott (1953) が提唱した概念で「毛布、タオル、ぬいぐるみなど、乳幼児が特別の愛着を寄せるようになる、おもに無生物の対象」(中島、1999)を指す。この対象は、母親への絶対的な依存から相対的な依存へと移行する時期に、象徴的に母親を代理し、この移行を支えるために機能すると考えられている。そしてこの概念は、乳幼児期のみならず、そのような対象が青年期や成人期にも敷衍する現象であるとみなす考え方があり(Winnicott, 1953/Horton, 1985)、これによるとこの現象は心理発達の節目ごとにその交わりが活発になるといわれている。その現象の特徴とは、①内的現実と外的現実が混在する ②慰めをもたらす機能をもつ ③自分で創り出したものか、周りにあったものを見つけたのか不明である ④身近にあって離れにくい ⑤成熟させる力をもつ、の五つが挙げられている(氏原他、1990)。これらの特徴を見ると、ファン対象とは、まさにここに含めることのできる側面を持ち合わせていると考えられる。

そのように考えると、移行対象とは移行期・過渡期を支える存在であることから、過渡期が終了すると、その存在が必要なくなると考えられる。そのとき起こりうる現象とは、「成人期に移行する節目で少し前まであれほど夢中になっていたことから急に、何かつきものがおちたようにさめてしまう」(氏原他、1990)という形で経験されることがあると述べられている。このように青年期の移行対象は、やがてなくなるものととらえられている一方で、発達過程のなかでその機能を果たすものはその後も存続するとの考え方もある(Downey, 1978/Horton, 1981/Shafii, 1986)。本研究の枠組みの中でこの現象について考察すると、川上(2003)の調査の感想として寄せられた“もう少し前だったらすごくファンだったのに”というコメントは、「やがてなくなる」立場を示していると考えられる。その一方で、本研究の青年期を対象とした予備調査の感想として寄せられている、思春期・青年期から20年以上に渡ってファンであるといった回答は、「存続する」立場を示していると考えられる。このように考えると、

本研究で得られた中・高校生の回答も、このままずっとファン対象が移行対象として存在し続け、さまざまな過渡期を支える存在として機能するケースもあれば、何年かすると“なぜ、あの対象がそんなに好きだったのだろう”と、まったくファンではなくなってしまうケースもあると考えることが出来る。このような差が、どのような要因から生まれるのかといったことも、興味深い。

## 引用文献

- 馬場謙一・小川捷之・福島 章・山中康裕（編）1987 青年期の深層 日本人の深層分析 有斐閣。
- Blos, P. 1962 *On adolescence: A psychoanalytic interpretation*. The Free Press of Glencoe (ピーター・ブロス 野沢英司〔訳〕1971 青年期の精神医学 精神書房)。
- Downey, T. W. 1978 Transitional phenomena in the analysis of early adolescent males. *The Psychoanalytic Study of the Child*. Vol. 33. Yale University of Chicago Press (森定、2001の引用による)。
- Erikson, E. H. 1959 Identity and the Life Cycle. *Psychological Issue Vol. 1 No. 1. Monograph 1*. International Universities Press, Inc, New York (無藤、1979の引用による)。
- 福田 廣 1990 青年の異性関係 平井誠也・藤土圭三（編）青年心理学要論 北大路書房 150-164 (斎藤誠一（編）1996 人間関係の発達心理学4 青年期の人間関係 培風館)。
- 広沢俊宗・田中国男 1986 阪神タイガースファンの気質に関する研究 (1) 日本社会心理学会・日本グループダイナミクス学会合同大会論文集 35-36。
- Horton, P. C. 1981 *SOLACE The Missing Dimension in Psychiatry*. The University of Chicago Press (森定、2001の引用による)。
- Hurlock, E. B. 1973 *Adolescent development (4th ed.)*. McGraw-Hill (斎藤、1996の引用による)。
- 川上桜子 2003 青年期ファン感情の構造 — その心理的支えとなる機能について — 東洋英和女学院大学卒業論文 未公刊。
- 小城英子 2002a ファン心理の探索的研究 関西大学大学院「人間科学」57, 42-59。
- 小城英子・高木修 2002b ファン心理の構造 日本心理学会第66回大会発表論文集、176。
- 小城英子 2003 ファン心理の構造 — (2) 職業別ファン心理の比較 — 日本心理学会第67回大会発表論文集、111。
- 久世敏雄・斎藤耕二（監修）2000 青年心理学事典 福村出版。
- 松井 豊（編）1994 ファンとブームの社会心理学 サイエンス社。
- 宮武朗子・鈴木信子・松井 豊・井上果子 1996 中学生の恋愛意識と行動 横浜国立大学教育紀要、36, 173-196。
- 文部科学省 2004/12/17 生徒指導上の諸問題の現状について [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/16/12/04121601/002.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/16/12/04121601/002.htm)。
- 森定美也子 2001 思春期における慰める存在 移行対象との観点から 心理臨床学研究、19, 535-541。
- 無藤清子 1979 「自我同一性地位面接」の検討と大学生の自我同一性 教育心理学研究、27, 178-187。
- 中島義明（編）1999 心理学辞典 有斐閣。
- 岡本祐子・松下美知子 2002 新女性のためのライフサイクル心理学 福村出版。
- 斎藤誠一（編）1996 人間関係の発達心理学4 青年期の人間関係 培風館。
- Shafii, T. 1986 The prevalence and use of transitional objects: A study of 230 adolescents. *American Academy of Child Psychiatry*, 25 (6), 805-808 (森定、2001の引用による)。
- 清水 均（編）1997 現代用語の基礎知識 1997年度版 自由国民社。
- 谷 冬彦 2001 青年期における同一性の感覚の構造 — 多次元自我同一性尺度(MEIS)の作成 — 教育心理学研究、49, 265-273。
- 辻 泉 2001 今日の若者の友人関係における構造、意味、機能 — アイドルファンを事例として — 社会学論考、18, 81-105。
- 氏原 寛・東山弘子・岡田康伸 1990 現代青年心理学 — 男の立場と女の状況 — 培風館。
- Winnicott, D. W. 1953 Transitional objects and transitional phenomena. In: 1971 *Playing and Reality*. Tavistock, London (橋本雅雄〔訳〕1979 遊ぶことと現実 岩崎学術出版)。
- 吉光正絵 1997 ロック・コンサートに集まる青年期未婚女性のオッカケ行動と家族状況、家族関係学、16, 1-11。